



岡村泰明県議会レポート

発行／自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043(227)7411

子ども医療費助成

中学3年まで対象拡大を提言!

12月県議会一般質問

昨年4月の県議選で5期目の当選を果たした四街道市選出の岡村泰明(おかむら・やすあき)県議は、12月定例県議会では、生活者の声を県政に届けるとの自らの政治モットー実現のため、一般質問に登壇しました。岡村県議は、子ども医療費助成に関連し、森田知事が選挙公約で掲げた、対象年齢の「中学3年生までの拡大」について、県民への約束を果たすよう提言しました。

また、岡村県議は、1学年を対象とする年齢の拡大に、5億円程度が必要なことから、「中学3年生までの拡大でかかる30億円を生み出すのは、知事の力だ」と力説し、新たな対応を求めました。その他の質疑と合わせ、岡村県議の議会活動を集めました。



本会議場の壇上から原稿なしに語りかける岡村県議

30億円生み出すのは知事の方で 不活化ポリオワクチン 希望者に道

医療費助成

岡村議員 子ども医療費助成事業について、森田知事は、選挙公約で中学3年生まで拡大すると言っていました。昨年12月に小学3年生まで対象年齢が拡大されましたが、中学3年生までだと、あと6年あります。1歳拡大するのに5億から6億円かかるといわれていますので、計算すれば30億円くらいあれば、中学3年生までできるだろうと考えています。

知事の任期は、あと1年4カ月ほどでしょうか。昨年引き上げたばかりなので、今年は無理だとしても、来年の12月ごろには、ぜひ中学3年生までの拡大を実現してもらいたいと思います。いかがでしょうか。

健康福祉部長 本事業は昨年12月に助成対象を小学校3年生まで拡大し、本年8月には、対象年齢について全市町村の足並みがそろったところです。

事業の拡大については、市町村から意向調査や意見交換会を通じてご意見をいただいているところです。今

後は、市町村や関係団体等の意見を十分に踏まえ、総合的に判断してまいりたいと考えています。

要望 子ども医療費助成は、県が上げるといふより、市町村がどんどん先に行っています。県より先行しているところが20自治体ほどあると思います。

いすみ市は、高校1年生まで、入院と通院を助成するなど、競い合っているのが現状です。

中学3年生まで拡大するのに30億円かかるという話をしましたが、これを生み出すのは知事の力です。子ども手当に伴って、年少扶助控除が廃止され、そのお金が地方税として県に入ってきますが、それがたいたい77億円あるといわれています。国はこれを生み出す手当てに回すようにと言っています。人の財布に手をつ込んで、持つていくという、こんなやり方は許せない。これは民主党、自民党に関係なく、悪いものは悪いと運動しているかなければなりません。

ぜひ、知事に先頭に立って頑張っていたら、30億円を生み出してもらいたいと、願っています。

ポリオ ワクチン

岡村議員 ポリオの生ワクチンをする人が少なくなつて、全国平均で17・5%が打っています。神奈川県では21・5%で、千葉県はさらに少なく、32%です。その神奈川県は、この12月から不活化ポリオワクチンを、希望者を対象に接種できるようにしました。

私にしたら、先を越された感じがしますが、生ワクチンにしろ不活化ワクチンにしろ、希望者にはどちらかを接種できるようにするべきだと思います。ひどい市町村では、70%の子どもが

接種してないという実態があります。千葉県としても、神奈川県のように不活化ポリオワクチンの接種を希望する方が接種できるように考えるべきではないか。

高齢者に生きがいのある場を

岡村議員 千葉県の高齢化率は21・5%で、まだ若い県といわれていますが、これから高齢化率が高まるとともに、高齢者がいきいきと活動できる社会づくりが大切になってくると思います。

四街道市では、シルバー人材センターへの登録者が増え、仕事を捜すのも大変な状況になっています。そこで、シルバー人材センターでの就業機会の拡大を図るべきではないか。

森田知事 県では、より多様な就業機会を確保するため、これまでの請負業務に加え、派遣事業の導入が促進されるよう千葉県シルバー人材センター連合会を

接種してないという実態があります。

保健医療担当部長 不活化ポリオワクチンの接種は、現時点では国の承認がないため、医師が個人輸入する形で実施されており、本県においても、複数の民間医療機関に加え、県立病院でも希望者に対し接種されています。

県としては、国に対し、不活化ポリオワクチンの国内早期導入を図り、定期予防接種ワクチンに位置づけるよう要望したところです。

岡村議員 児童・生徒の教育現場で、高齢者を含めた地域の人材を活用すべきだと思いませんか。

教育長 現在、県内の小中学校では、高齢者を含めた地域の方々をゲストティーチャーとして招き、得意な技術や経験を生かして授業やクラブ活動、栽培活動などの指導をお願いしています。

このような交流は、児童生徒が働く意義を学ぶとともに、コミュニケーション能力を高めるなど、キャリア教育としても有益なものと考えています。

市民の声を県政へ

四街道市特集

12月議会一般質問

印旛沼 浄化対策 「恵みの沼の再生」



議場最後列の自席から再質問する岡村県議

森田知事

印旛沼は豊かな水を湛え、飲料水、農業・工業用水として供給されているほか、貴重な漁場ともなっています。そこで、これまで県は「恵みの沼の再生」に向けた方策について検討し、さまざまな浄化対策を展開してきました。

この計画に基づいて浄化対策を推進してまいります。岡村議員 県は積極的に新しい手法も導入すべきではないか。

岡村議員 新たな手法については、全国での今後の新技術・新工法の研究開発の動向を見ながら、積極的に検討してまいります。

吉岡バイパスの整備状況

岡村議員 県道浜野四街道長沼線の吉岡バイパス事業は、昭和62年に着工して途中までやって、それから先はなかなか進みません。一生懸命やってくれているとは思いますが、現在の進捗状況と、今後の見通しはどうか。

県土整備部長 同路線の千葉市境の谷当交差点から国道51号の吉岡十字路までの区間については、幅員が狭く、屈曲していることから、交通安全と利便性向上

「みためし行動」

岡村議員 印旛沼浄化対策のために行っている「みためし行動」の取り組みと、その成果はどうか。

県水道局の高度浄水処理施設

岡村議員 柏井浄水場で取水する利根川の水が非常に汚くなっている。木下の取水場で取水する際、粉末活性炭を使って有機物を除去していますが、有機物が塩素と結合すると、トリハロメタンという発がん性物質が発生するといわれています。

水道局長 高度浄水処理施設の建設に当たっては、低コストで、確実な水処理を行うことが必要です。このため、平成17年度から3年間、木下取水場で利根川の原水を使つた高度浄水処理実験を行い、その結果、オゾンと生物活性炭を組み合わせた方式で、かび臭物質を含む有機物質に対し、高い処理効果が確認できました。

今回の事業については、投資効果の指標となる費用便益比が2・19となり、効果があるかと判断したため、大規模施設整備の事前評価を実施していますが、学識者等による委員会では「本事業の実施については妥当である」旨の意見をいただ



福岡県の多々良浄水場を視察する岡村県議

振り込め詐欺対策

岡村議員 振り込め詐欺の発生状況と、県警としてのどのような抑止対策を行っているのか。

警察本部長 平成23年10月末現在の本県の発生状況は、認知件数が613件、被害総額が約9億2千6百万円で、前年同期に比べ、件数で34%、金額で47%増加しています。

警察としては、各種メディアを活用した広報活動のほか、森田知事のビデオメッセージや高齢者宅を訪問しての啓発活動、金融機関への声かけ等の働きかけ、年金支給日におけるATMの集中警戒などを実施しているところだ。

また、来年1月から振り込め詐欺・悪質商法被害防止コールセンターを発足させ、未然防止対策を強化す

市民と県政のパイプ役

●県政や四街道市のご相談・ご要望をお寄せください……

岡村やすあき

県議事務所
〒284-0025 四街道市さちが丘1-15-2 TEL/FAX.043(423)0103

今後、これらの結果を踏まえ、施設整備の具体的な検討を進めてまいります。